

# 革命

第1号 2頁 20円  
毎月1日15日発行  
発行所  
東京都豊島区西池袋 3-4-2  
現代社  
電話東京(電)3429  
編集発行人 田中五郎  
6ヶ月12回定額300円

永流革命世界革命の旗  
万国の労働者団結せよ  
日本共産党青年同盟  
論国共生協解散を解放

## 国際反戦闘争と 根底的な社会運動の総攻撃を開始せよ

### (一) 世界プロレタリア人民闘争の現段階

世界プロレタリア人民闘争の現段階は、第二次世界大戦の激化と共に、空前の規模に達している。この闘争は、単なる民族解放闘争や国家間の戦争ではなく、人類の生存と自由のための総攻撃である。プロレタリア革命の旗を掲げ、全世界の労働者階級が団結し、帝国主義の侵略を阻止し、社会主義の道を歩むべきである。

### (二) 日本プロレタリア人民の闘いの任務と二十年

日本プロレタリア人民の闘いの任務は、国内では天皇制と軍閥の打倒、民主主義の確立、国際的には反戦闘争の推進である。二十年の闘いを経て、我々は現在の状況に達している。しかし、我々の任務は決して完了したわけではない。むしろ、この困難な状況こそが、我々の覚悟と団結を試す絶好の機会である。

### (三) 日本プロレタリア人民の闘いの道は何か？

日本プロレタリア人民の闘いの道は、単なる暴力的な反乱ではなく、根底的な社会運動の総攻撃である。労働組合の組織化、学生運動の展開、農民闘争の推進など、あらゆる階級の労働者が団結し、社会の根本を揺るがす必要がある。

### (四) 十・八佐藤訪ベトナム阻止

十・八佐藤訪ベトナム阻止の闘いは、国際反戦闘争の重要な一環である。佐藤首相のベトナム訪問は、日本軍の侵略を正当化する行為であり、我々プロレタリア人民はこれを断然反対する。

## 公私立大学授業料値上げ阻止の全面対決として闘い抜け

### (一) 授業料値上げ阻止の闘いは、社会運動の総攻撃の一環である

授業料値上げ阻止の闘いは、単なる金銭的な問題ではなく、社会運動の総攻撃の一環である。教育の機会均等を脅かす行為であり、我々学生はこれに断然反対する。この闘いを通じて、我々の階級意識を高め、団結を深めよう。

### (二) 授業料値上げ阻止の闘いは、労働者階級の団結を促す

授業料値上げ阻止の闘いは、労働者階級の団結を促す。学生は労働者階級の子弟であり、我々の闘いは労働者階級の利益と一致している。労働組合と連携し、共同の闘いを展開しよう。

### (三) 授業料値上げ阻止の闘いは、農民階級の団結を促す

授業料値上げ阻止の闘いは、農民階級の団結を促す。農民は我々の同志であり、我々の闘いは農民の利益と一致している。農村に足を運び、農民と連携し、共同の闘いを展開しよう。

### (四) 授業料値上げ阻止の闘いは、学生階級の団結を促す

授業料値上げ阻止の闘いは、学生階級の団結を促す。我々学生は、この闘いを通じて、互いに支え合い、団結を深めよう。学生連帯の旗を掲げ、闘いを進めよう。

## プロレタリア統一戦線のための、革命的な学生

## の闘う全国政治機関紙が発行するに当って

## 人間らしく闘おうとする学生は「結合した目」をもとう！

革命的な学生は、人間らしく闘おうとする。我々の闘いは、単なる利益の追求ではなく、人類の生存と自由のための総攻撃である。この闘いを通じて、我々の階級意識を高め、団結を深めよう。全国政治機関紙の発行は、我々の闘いを広げ、団結を深める重要な手段である。

## 「革命」編集局

「革命」編集局は、プロレタリア統一戦線のための闘いを推進し、革命的な学生を支援する。我々の闘いは、労働者階級、農民階級、学生階級の団結を促す。全国政治機関紙の発行を通じて、我々の闘いを広げ、団結を深めよう。

# 「集中処理局」闘争をめぐる 九・一スト中止の背景

【本紙記者東京十一日電】連日、労働界の闘争が激化している。特に、集中処理局をめぐる闘争が、労働界の注目を集めている。この闘争の背景には、労働者の生活水準の低下と、企業側の利益追求の激化が関係している。労働者は、集中処理局の設置をめぐって、企業側の意向に反対し、ストライキを繰り出している。一方、企業側は、集中処理局の設置を推進し、生産性を向上させることを目指している。この対立は、労働界と企業界の間で深刻な溝を生み出している。労働者は、集中処理局の設置が、自分の生活を脅かすと考えている。一方、企業側は、集中処理局の設置が、自分の利益を拡大させると考えている。この対立は、労働界と企業界の間で深刻な溝を生み出している。

集中処理局の設置は、労働者の生活を脅かすという見方がある。労働者は、集中処理局の設置が、自分の生活を脅かすと考えている。一方、企業側は、集中処理局の設置が、自分の利益を拡大させると考えている。この対立は、労働界と企業界の間で深刻な溝を生み出している。労働者は、集中処理局の設置が、自分の生活を脅かすと考えている。一方、企業側は、集中処理局の設置が、自分の利益を拡大させると考えている。この対立は、労働界と企業界の間で深刻な溝を生み出している。

労働界の闘争が激化している。特に、集中処理局をめぐる闘争が、労働界の注目を集めている。この闘争の背景には、労働者の生活水準の低下と、企業側の利益追求の激化が関係している。労働者は、集中処理局の設置をめぐって、企業側の意向に反対し、ストライキを繰り出している。一方、企業側は、集中処理局の設置を推進し、生産性を向上させることを目指している。この対立は、労働界と企業界の間で深刻な溝を生み出している。

# 全国の希望をこめて 田中首相の演説

【本紙記者東京十一日電】田中首相は、十一日午後八時、衆議院で演説を行った。演説の中で、首相は、日本の現状と今後の展望について述べた。首相は、日本の経済成長を維持し、国民の生活を向上させることを目指している。また、国際社会での日本の役割についても述べた。首相の演説は、国民の注目を集めた。首相は、日本の現状と今後の展望について述べた。首相は、日本の経済成長を維持し、国民の生活を向上させることを目指している。また、国際社会での日本の役割についても述べた。首相の演説は、国民の注目を集めた。

田中首相の演説は、国民の注目を集めた。首相は、日本の現状と今後の展望について述べた。首相は、日本の経済成長を維持し、国民の生活を向上させることを目指している。また、国際社会での日本の役割についても述べた。首相の演説は、国民の注目を集めた。首相は、日本の現状と今後の展望について述べた。首相は、日本の経済成長を維持し、国民の生活を向上させることを目指している。また、国際社会での日本の役割についても述べた。

# 授業料値上げの布石、七名の不当処分撤回闘争 法政大準備員

【本紙記者東京十一日電】法政大学準備員は、授業料値上げの布石と見られる七名の不当処分を撤回する闘争を繰り出している。準備員は、この処分が不当であると主張し、撤回を求めた。法政大学側は、この処分は正当であると主張している。この闘争は、法政大学界隈で大きな波紋を起している。準備員は、この処分が不当であると主張し、撤回を求めた。法政大学側は、この処分は正当であると主張している。この闘争は、法政大学界隈で大きな波紋を起している。